

ありのままの自分で、今の生活を続けたい(一雄様)。お友達ができるかという心配は無用でした、自分に合う人は必ずいます(文子様)

浜松(ゆうゆうの里)

岡崎 一雄様(88歳)

岡崎 文子様(81歳)

平成31年2月

夫婦入居

優しい義母のおかげ

ご主人 12歳の時に終戦を迎え、比較的戦禍を免れた横須賀に家族三人で移り住みました。東京の大学を卒業し地元横須賀で就職。公務員として定年まで働きました。奥様 私は4歳で終戦。戦争で父を失った家族は横須賀に引越しました。短大卒業後に地元横須賀で公務員になりました。市役所では主人と同じフロアで働いていました。縁があったのだと思います。主人の母が本当によくしてくれました。知らない人はみな私の実の母だと勘違いするくらいよくしてくれました。私はとても幸せでした。



お母様と一緒に伊豆旅行の思い出

ご主人 仕事一本でした。お酒と麻雀が大好きで、家の事は家内と母に任せきりでした。麻雀は若い頃に一生分やったので、もういいかな・・・という心境です。

奥様 主人と義母との3人暮らしでしたが、夫婦共働きの留守は義母に任せきりでした。それでも一度も悪く言われたことがありません。娘を授かってからも、優しい義母のおかげでゆっくり子育てをさせてもらい、読書サークルにも行かせてもらいました。

「知らない地域で生活をしてみたい」が浜松移住のきっかけに

ご主人 市役所を退職してからもしばらく働いていましたが、75歳で仕事を完全リタイアしてからは「せっかくの人生、知らない土地で生活してみたい」という心境になりました。いくつか候補地を検討した結果、77歳の時に、物価が安そうな浜松駅の近くに引っ越してきました。しばらくしてその住宅が処分されることになり、次の住まいは老人ホームが現実的になりました。娘が一人いますが彼女に迷

惑をかけたないように介護付きで元気なうちに入る施設が良いと考えました。

奥様 それ

に加えて私は、自炊もできて、食堂の利用もできる施設がいいと思いました。

ご主人 関東と浜松の自立型ホームを見て比較しました。決め手はメタセコイアの大木があり、緑豊かで、ゆったりとした環境が気に入ったことです。3年待機して入居できました。

主人が86歳で洗濯を覚え毎日着替えを届けてくれました

奥様 脊椎管狭窄症を持っていたのですが、入居してまもなく転倒してしまつて3ヶ月近く入院したことがあります。家事をしたことのない主人が、洗濯を覚え毎日洗った着替えを届けてくれたのです。

ご主人 私は元気にしているおかげで、86歳にして洗濯機と掃除機の使い方を覚えました。それにし



ても女性の服はわかりません。わからないので、写真を撮つて「これか？」って聞いたりしました。奥様 主人は優しい人です。

私は育てる係、家内はもつぱら鑑賞する係

ご主人 朝食後の日課は、歩数にして6000歩強のウォーキング。週に1度のアスレチックジムのトレーニングと健康体操にも参加しています。サークルは気功体操、聖書を読む会、賛美歌を歌う会に入っています。農園では花を育てています。丈夫で花付きのいい種類を選んで植えています。家内は農園作業はやりませんので私が育てる係。家内はもつぱら鑑賞係です(笑)。

奥様 私も気功体操、吹き矢のサークル、折り紙同好会に入っています。入居前にはお友達ができるか心配しましたが、自分に合う人は必ずいるんですね。子供の頃から一貫して「歴史」だったので、浜松に転居してから駅前にある講座に通つて歴史を学んでいます。その講座で知り合ったお友達とは10年来のお付き合いになりました。ご主人 私はウォーキングの途中で挨拶を交わす3匹の犬の友達ができました。リング園の白黒のトト、神社の近くの真つ黒なハナ、街道添いのシロです。最近、気難しいシロが尻尾を振るようになって楽しみが増えました。これからも健康に今の生活を続けたいです。